

埼玉・オハイオスカラシップ 奨学生、親善大使レポート 11月 ウスターでのサンクスギビング

こんにちは。11月初旬、フィンドレーでは雪が降りました。家の周りもかなり雪が積もりました。ただ、雪以上に危険なのは氷でした。ほとんど除雪された道路の上に薄ら積もった雪が翌朝凍って非常に滑りやすくなっていました。機会があってとても寒い日の早朝にハイウェイを走行したのですが、非常に多くの車がスリップして道路脇に停止していました。また対向車線では大型のトラックが道をふさぐような恰好で停止していました。地元の人によれば、この程度は序の口で1, 2月はこれとは比べ物にならない寒さだそうです。事故や怪我がないようにとにかく気を付けて外出します。

・ウスターでの休暇

サンクスギビング休暇の間、アメリカ人の友人、Jon の家に遊びに行きました。友人の家はフィンドレーから車で約2時間の Wooster (ウスター) という場所にあります。フィンドレーと違いウスターは起伏の激しい土地で、日本で山の近くに住んでいた自分としては親近感の湧くところです。Jon の家には日数にして5日間ほどお世話になりました。普段の朝ごはんは「アメリカ流」、完全セルフサービスで、戸棚、冷蔵庫の中のものを適当に食べてよいとの事でした。今まで自分の家以外でここまで自由に行動できなかったことがないので、なれるまで時間がかかりました。

ウスターにいる間、アーミッシュの方向けの商品を多く扱うお店に行きました。アーミッシュとは移民当時の生活様式を維持している集団で、具体的には電気をほとんど使わないなど、他のアメリカ人たちとも違う文化を持っています。店内は売っているもののほかに、アーミッシュの人々がかつて使っていた道具や家具が展示されています。電気を使わないという特徴から暖炉やガス式の冷蔵庫が売っていたり、とても興味深い店でした。

日曜日には、家族全員で教会に行きました。私自身、キリスト教徒ではないのですが一緒に連れて行っていただきました。讃美歌も祈りの言葉も知りませんが、普段の喧騒や考え事から離れて厳かな雰囲気のある空間にいると少しリラックスできるような気がしました。

・サンクスギビング

サンクスギビングの当日は Jon の親族一同が集まるパーティーに参加させていただきました。50人を越える人が広いパーティー会場に集まり皆で昼食を食べました。シチメンチョウなどの伝統的な料理はもちろん、さまざまな料理

があり、さらに量も多く文字通り動けなくなるまで食べました。Jonの親戚の方々は血のつながりのない私とほかの友人もとても優しく迎え入れてくださり、多くの方とお話させていただきました。

食事の後は暖炉の近くで談笑したり、雪の降る中外に散歩にでたりと家族の時間を満喫しているようでした。アメリカのサンクスギビングは日本のお正月にあたる、家族が集まるきっかけのイベントのようです。



パーティーでの集合写真